

16 森林のもつ環境資源 についての考察

岩手営林署 寺田森林官 工藤圭一

1. はじめに

最近地球的規模での森林環境整備問題が大きくとりざたされている一方で、国民一般からは生活のなかに「ゆとり」と「憩い」を求める気運が高まり、とりわけ森林のもつ多面的な環境資源に対する要望・期待がいろいろな形で高まってきております。

このような現状に対応すべく、新たな「流域管理システム」の導入や「国有林野の機能類型区分」等が導入され、従来とは変わった国有林野の管理・経営へと大きく一步を踏み出したところです。

直接現場で業務に携わる私達一人一人がこれらのことを正しく理解し日常業務に反映させて行かなければならないことはもちろんのこと、川上から川下に至る一般住民相互のそれぞれの生活環境の相違、森林の環境資源に対するそれぞれの価値観の相違など、その調和と理解をどう取り付け、社会一般からの合意をどう得たらいいのか、今後私達に課せられた大きな課題ではないでしょうか。

こうした課題に取り組む一つの方法として、今年度我が署で計画された「育樹祭」を実施する中で試行したその内容を報告いたします。

2. 実施方法について

(1) 従来我が署では春期に「植樹祭」を実施してきましたが、今年度は秋期に「育樹祭」を実施する計画となったので、この計画の中で試行することとしました。

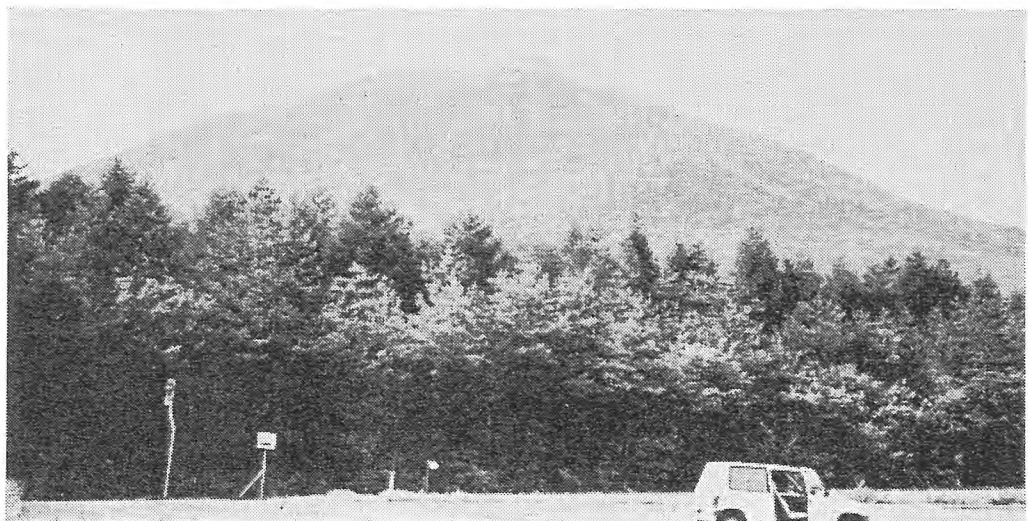
(2) 育樹祭の位置付けとしては活力ある森林造成のための保育作業の必要性・重要性を啓蒙普及することはもちろんですが、さらに周囲の景観にマッチした修景を加味し訪れる多くの人々の憩いの場・やすらぎの場となるよう「森林と木とくらしの調和」をテーマとして実施することとした。

(3) 前述の目的達成のために、実施箇所は出来るだけ一般からの入込者数の多い場所とし、国の天然記念物に指定されている岩手山麓にある「焼け走り溶岩流」・岩手山登山口のそばで、地元西根

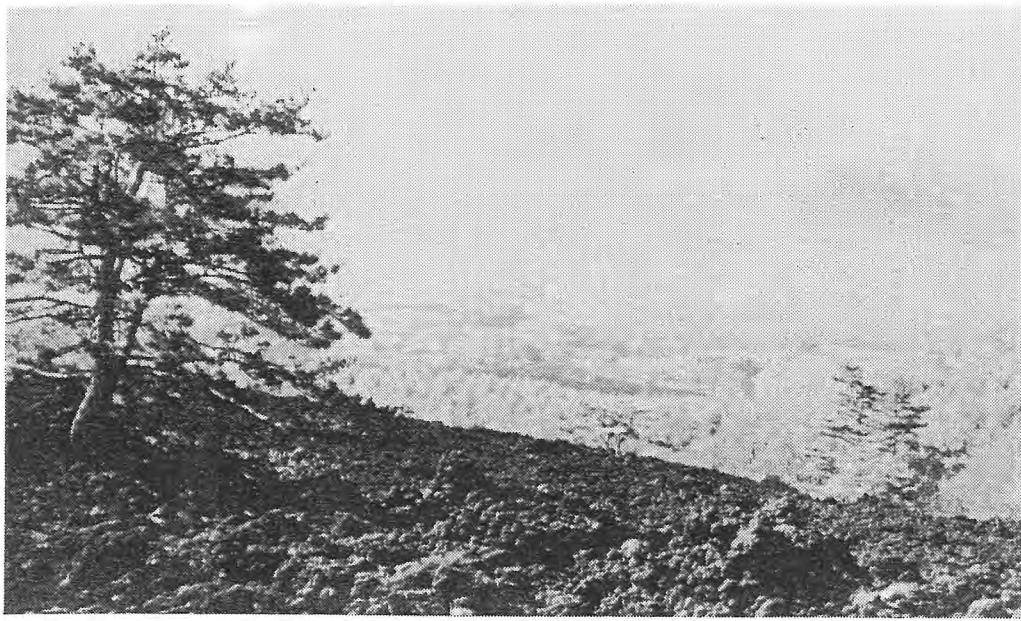
町が国有林を活用し天文台・キャビン・各種イベント会場施設・キャンプ場・樹齢83年生カラマツ林内の遊歩道・さらには現在オートキャンプ場を造成中であり、「国際交流村」と名付けて自然を生かした正に環境資源の造成を進めている所に隣接した箇所を選定した。 [写真-1~3参照]

- (4) 現地は道路に沿って約500m、巾が約12mの細長い地形の23年生アカマツ林分で道路沿いから林の中は下草やかん木で覆われ、広葉樹も進入してかなり過密になっている林分であった。 [写真-4~6参照]
- (5) 作業地は四つのブロックに区画し、各ブロック間には見本区を設定して作業のしあがり状態がよく分かるように配慮した。また、修景効果のあるヤマザクラ・ナナカマド・カエデ類や有用広葉樹を適度に残存させるよう事前に目印を付けておいた。
- (6) 植樹祭とは異なり刃物(下刈鎌・鋸)を使用するため安全面で問題があることから特段の注意と職員による現地での実地指導と助言を徹底することとして安全確保に努めた。
- (7) 作業手順は、まず鎌で下草と小かん木を刈払い、次に太めのかん木と除伐木を鋸で処理し、最後に目通り下の枝打ちを鋸で処理した。

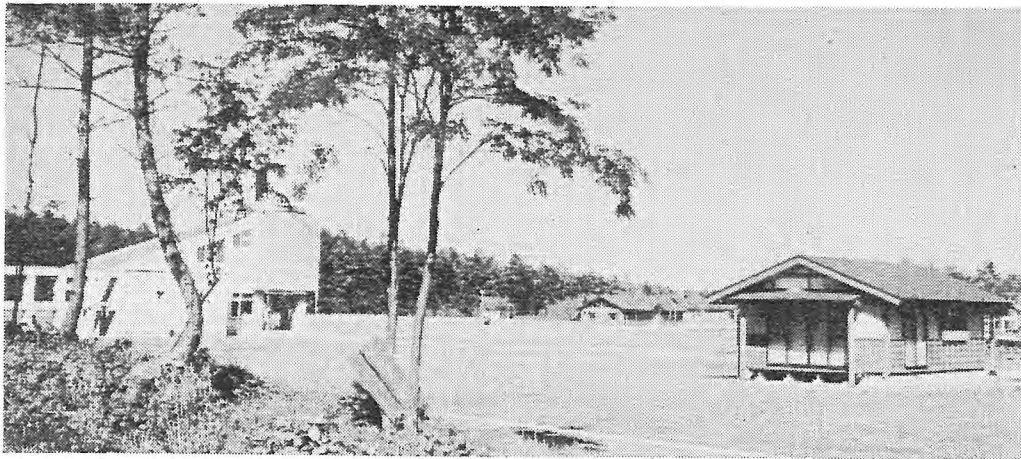
[写真-1 岩手山を背景とした会場]



[写真-2 「焼走り溶岩流」と岩手山]



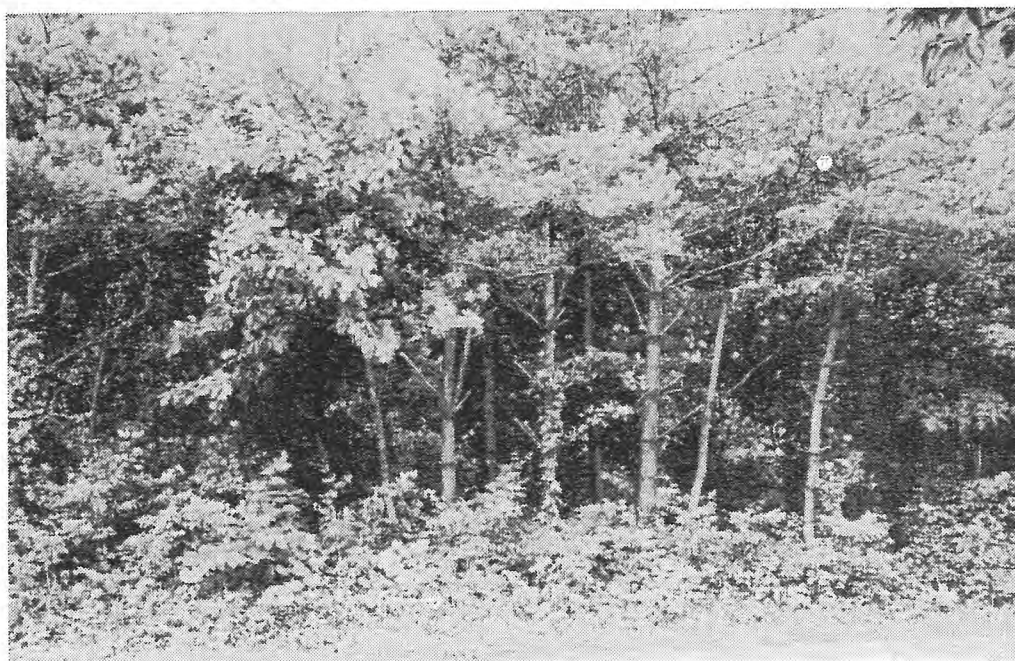
[写真-3 西根町「国際交流村」施設の一部]



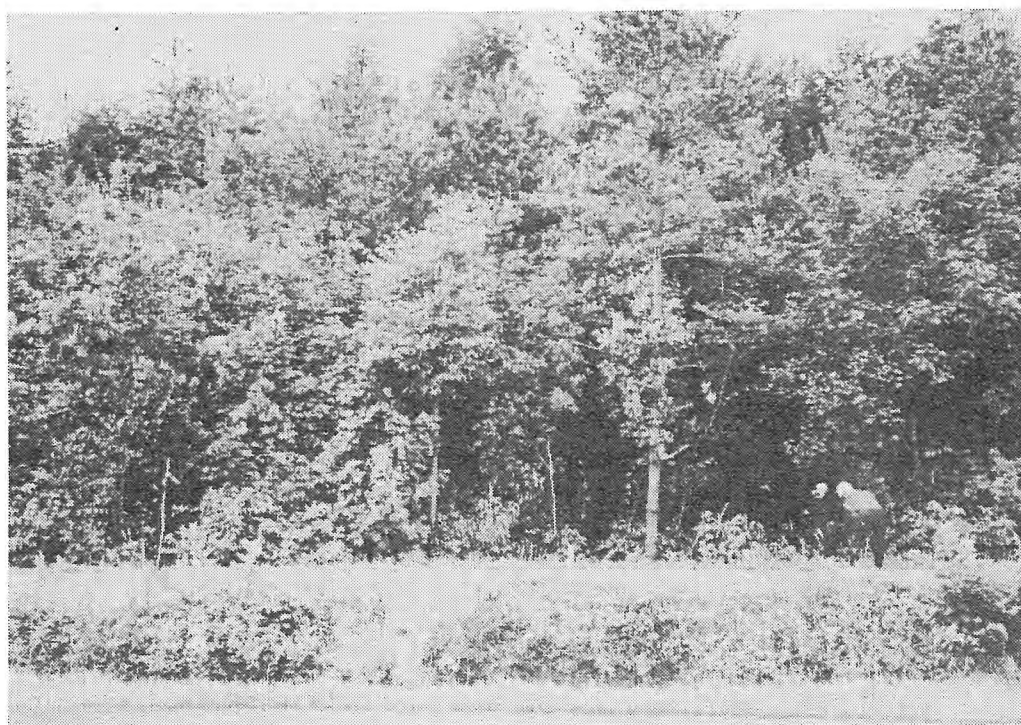
[写真-4 育樹祭会場全景]



[写真 - 5 会場近景]



[写真 - 6 会場近景]



3. 実施結果について

- (1) 当日は好天に恵まれ、参加者は92名と大勢の参加を得て幸先のよい出だしとなりました。初めての「育樹祭」でもあり進行には慎重を期し、職員のそれぞれの分担・持ち場でのコントロールがよく災害もなく無事終了できたことをまず報告します。
- (2) 開会に先だって、集合した参加者の多くの方から「育樹祭」はどんな作業をするのかとささやかれ、皆目検討がつかなかったようで案内状に明示すべきであったと反省したところです。
- (3) 開会に当り、署長から森林のもつ環境資源と木材製品とくらしとのかかわり「森林（もり）と木とくらしの調和」をテーマとして「育樹祭」を実施することの主旨・内容の挨拶があり、更に育樹作業についての具体的説明があつてはじめて参加者が納得した様子でした。
- (4) 例年実施されてきた「植樹祭」とは異なり鎌と鋸の作業でありしかも下草・かん木の密生した藪状の中での作業であったため、参加者の皆さんは一汗も二汗も流し、慣れない方々は大変御苦労されたと思います。
職員の適切なアドバイスと作業援助により、先に述べたように一人の怪我人もなく終了したことはなによりでした。
- (5) 最後に記念標柱を建立して全作業を終了し、全員開会場所に集合いろいろな感想が聞かれましたので、そのいくつかをお知らせしたいと思います。
- (ア) いつもの植樹祭程度の作業かと思ったが、今日は汗を流した。
(イ) 営林署ではこんな仕事もしているんですか。
(日常林業にかかわっていない方の本音)
(ウ) もう少し間引きをしてもよかったです。
(エ) もう少し早い時期に除伐しておけばよかった。
(林業専業者)
(オ) 特に西根町関係者からは、町の活性化のため「国際交流村」を中心に地域の資源である自然と景観を生かした施設造りに努力しているさなか、その隣接地で「育樹祭」が実行されたことに特別な感謝の意が表されました。

以上のほか、おしなべて周囲の施設・景観と岩手山を背景とした作業地が、快晴の秋空のもと見ちがえる程快適になったことに一様に感激し、その成果を自我自賛している様子でした。

[写真 - 4 の作業実施後の状況]



4. 考 察

従来水資源のかん養、各種防災・防備の整備拡充をはかりつつ森林資源の充実に努めてきたところですが、初めに述べたように私達の身の回りでは川上・川下の社会環境・生活環境の違い、あるいは森林・環境資源に対する価値観の相違等から今後ますます多岐にわたっての要望・期待が増して行くのではないかと考えます。

私達はこのことを常に念頭に置き、日常業務のなかで少しでも地域の森林の特性を生かし、地域の振興につながる国有林の経営や環境資源の整備にも努めなければならないものと考えます。

また、この環境資源が有形であると無形であるとかかわらず、有価性であることを私達自身はもちろん、社会一般の認識として広めて行きたいものと思います。